

【各教科等のグランドデザイン】

教科名

何ができるようになるか

○各教科等で育成する資質・能力

R：英検2級から準1級レベルの初見の文章を読んで理解できる。
 L：英検2級から準1級レベルの文章を聞いて概要を理解できる。様々な場面で多様な英語を聞いて必要な情報を得ることができる。
 W：社会問題など与えられたテーマについて、意見を論理的に整理し、ふさわしい表現、多様な文のパターンを使用して書くことができる。
 S (Production)：社会的な課題について、相手に伝わるようにプレゼンテーションができる。
 S (Interaction)：即興で自分の意見を理由とその根拠を示しながら説明できる。質疑応答や論理的な反論ができる。また、それぞれの領域の力を統合的に用いて論理的に考え、思いや考えを伝えあって、探究的に深めたりできる。

何が身に付いたか

○各教科等の学習評価

R：英検2級から準1級レベルの初見の文章を読んで理解できる力。
 L：英検2級から準1級レベルの文章を聞いて概要を理解できる力。様々な場面で多様な英語を聞いて必要な情報を得る力。
 W：社会問題など与えられたテーマについて、意見を論理的に整理し、ふさわしい表現、多様な文のパターンを使用して書くことができる能力。
 S (Production)：社会的な課題について、相手に伝わるようにプレゼンテーションする力。
 S (Interaction)：即興で自分の意見を理由とその根拠を示しながら説明する能力。質疑応答や論理的な反論をすることができる資質・能力。また、それぞれの領域の力を統合的に用いて論理的に考え、思いや考えを伝えあって、探究的に深めたりすることができる力。

生徒の実態

・ICT機器などを活用しつつ、主体的に学ぶ機会や対話的に学ぶ機会が少なく、深い学びを実践している生徒が少ないことが課題である
 ・学校行事やキャリア形成活動において、主体的に活動している生徒が少ないことが課題である

生徒たちの発達をどのように支援するか

○配慮を必要とする子供への指導

・必要に応じて、生徒の特性を踏まえた個別の支援計画を作成するとともに、教職員間で共有を図り、教科全体で支援する。

目指す生徒の姿

・教師や友人と協働しながら、学問のよさを理解するとともに、学び方を工夫しながら深い学びを実践しようとする生徒
 ・グローバルな課題の解決に挑む力、持続可能な社会づくりに貢献できる力を持つ生徒

何を学ぶか

○各教科等の教育課程の編成

- (1) 英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深め、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付ける。
- (2) 目的や場面、状況などに応じて、様々な話題について英語で理解したり、適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- (3) 英語の背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら主体的、自律的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

どのように学ぶか

○各教科等の授業の実施

- (1) 実際の使用場面を意識して、英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きについて学ぶ。
- (2) 学んだ英語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きを活用し、自らの「思考力・判断力・表現力」を用いて言語活動を行う。
- (3) 英語学習を通じて、様々な文化や「見方・考え方」について理解を深めつつ、自らの考えや自国の文化を英語で表現する。

実施するために何が必要か

○指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働

【探究的な思考力を伸ばす指導】	効果的な言語活動やALT活用	教科内及び校外研修	パフォーマンステストの実施
【学びの個別最適化】	進路希望に応じた課外	検定や資格取得の支援	ICTの効果的な活用
【主体的・継続的な学びの環境構築】	学校設定科目の設置	コンテスト等の支援	外部団体との連携

各教科等の特質に応じた「見方・考え方」

- ・言語はそれ自体に、話者集団が文化的・歴史的に培ってきた視点や思考を含むので、外国語を学び、その言語を用いて考え、表現することで、一つの物事を異なる視点、思考からより深く知ることができる。英語学習を通して異なる視点を獲得し、社会や世界、他者との関わりに着目して物事を捉えることで、太田一高が目指す「グローバルな課題の解決に挑み、持続可能な社会づくり」に必要な、協働性や相互理解が高めてほしい。
- ・母語でない英語を使って、様々な国の異なる文化を持つ人とコミュニケーションすることにより、必然的に互いを理解しようという意識が高まる。ダイバーシティを尊重する太田一高では、英語でコミュニケーションを行う活動を多く取り入れて、実際のコミュニケーションで、相手に配慮し、目的や場面、状況などに応じて適切に活かせることを目指している。